

②働きやすい柔軟な就業環境

テレワークが拡大して、勤務時間や地域を選択できる働き方が広まり、育児・介護の状況や余暇の過ごし方など、誰もが自らのライフスタイルに合わせて働いている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 30代前半の女性。夫、3歳の娘と播磨地域の地方都市で暮らしている。夫の転勤に伴い、1年前に他府県から引っ越してきた。知り合いのいない土地、まだまだ手のかかる娘の子育てと新生活は不安ばかりだったが、娘が通う子ども園で、気の合う友達もたくさんでき、楽しく過ごしている。
- 結婚前から情報通信企業でソフトウェアの開発を行っていた。こちらに転居してからも、テレワークのシステムを使い、同じ会社で継続して勤務している。

<テレワーク>

- 私が勤めている会社は他府県にある本部以外に拠点がない。夫が転勤することになったとき、夫の収入だけでは生活が苦しいので、私が今の会社に勤めながら親子3人で一緒に暮らせるよう、テレワークでの勤務を申請した。
- 私の会社では、上司をはじめ、誰もがテレワークの制度を使っている。配偶者の転勤を機に、遠隔地でのテレワーク勤務に変更した人も多く、この人たちは会社にとっても重要な戦力になっている。
- テレワークのシステム自体は、会社が開発したグループウェアを使っており、会社から支給されたパソコンを使ってログインし、業務を始めるようになっている。パソコンのログ記録を見れば、会社は私がいつ勤務しているか把握することができるが、ソフトウェア開発の成果で業務の達成度は評価されるので、仕事をする時間は自由に設定できる。
- 上司からは、業務の進捗状況についての確認連絡がときどきやってくる。上司や同僚とふだんは会うことはできないが、ウェブ会議やチャットを使ってコミュニケーションを取っており、慣れてくると、それほど支障を感じなくなってきた。

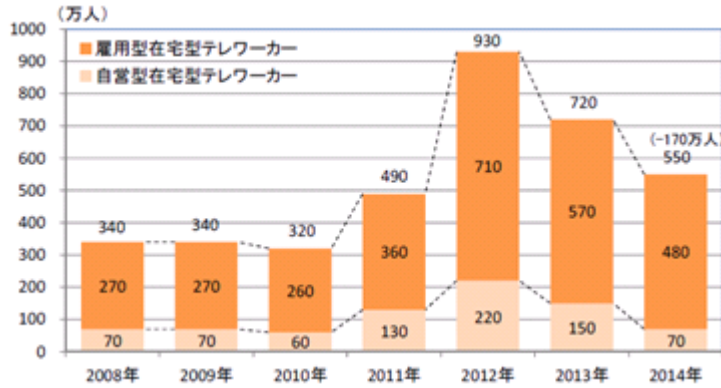
<家庭、子育てとの両立>

- 私の場合は、まだ娘が小さいこともあり、自宅での勤務はとても助かっている。昨日、子ども園から娘が熱を出したと連絡があった時は、すぐに迎えに行き、病院に連れて行くことができた。病院から帰った後は、娘の看病をしながら仕事を続けたけれど、テレワークでなければ、すぐに娘のところには行けなかった。子育てと仕事、どちらも充実していると実感している。
- 夫の仕事には、全国転勤がある。私の会社の本部への通勤圏内に戻ったときには、オフィスでの勤務を選択するかもしれないけれど、他の地域に引っ越した時は、テレワークでの仕事を続けるつもりだ。

現状や課題

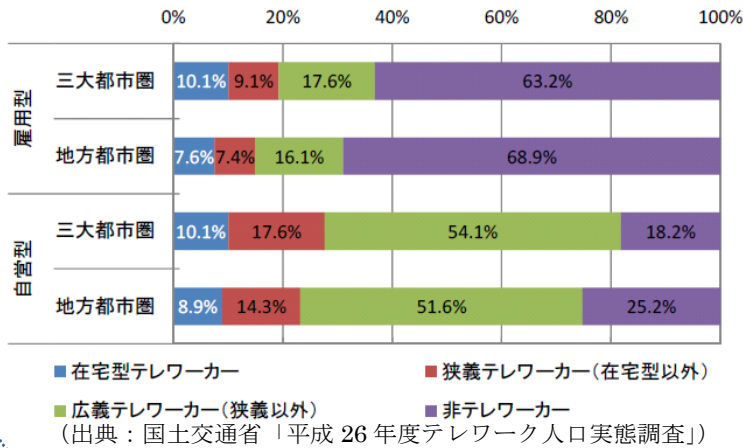
【テレワーカー数推移】

○在宅テレワーカー数推移（国）



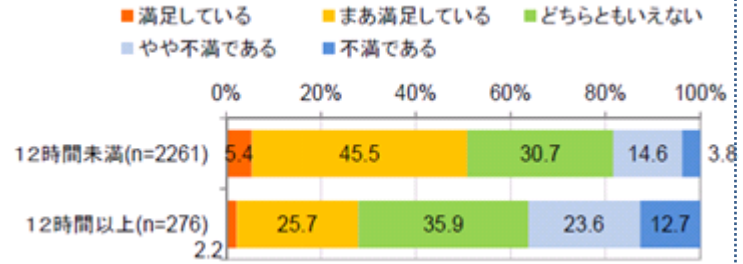
(出典：国土交通省「平成 26 年度テレワーク人口実態調査」)

○テレワーカーの属性（国・都市圏別）



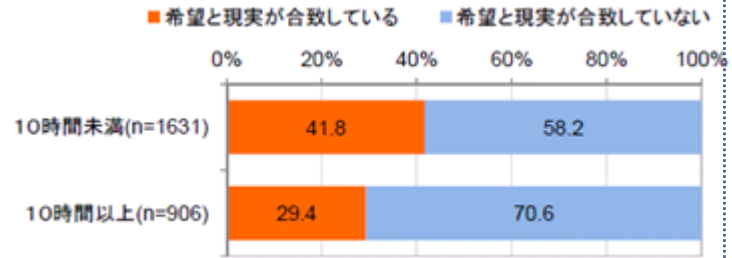
【ワーク・ライフバランスの現状（国）】

○一日の労働時間別現在の生活への満足度



(出典：内閣府「ワーク・ライフバランスに関する個人・企業調査」)

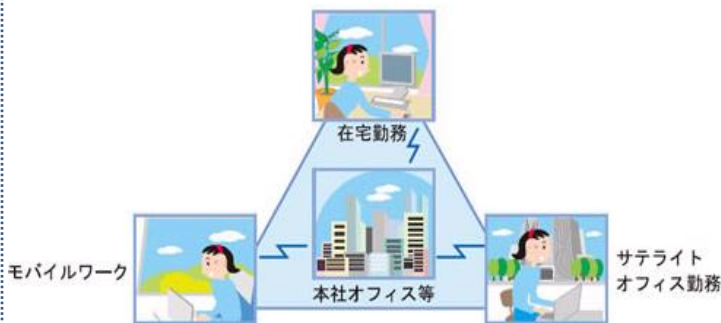
○一日の労働時間別ワーク・ライフバランス希望と現実の合致状況



(出典：内閣府「ワーク・ライフバランスに関する個人・企業調査」)

見えてきた兆し

【テレワークイメージ図】



(出典：一般社団法人日本テレワーク協会)

【テレワーク例】



パソコンの会議システムを使ったコミュニケーションの様子

(出典：総務省「平成 27 年版情報通信白書」)

【専門家等の意見】

- テレワークの導入により、従来の働き方では働けなかった人が働けるようになる。
- 仕事をしたい人はすればいいし、より多様な選択ができることが本当の意味のワークライフバランスである。